

平成30年度第1回江別市スポーツ推進審議会開催結果

1. 開催日時

平成30年7月19日（木）午後3時30分～午後4時45分
江別市教育庁舎大会議室

2. 出席者

・スポーツ推進審議会委員：11名

金内晴夫会長、花井篤子副会長、古川孝行委員、小林照美委員、福田幸一委員
北本貴史委員、原大輔委員、山下和人委員、松田和子委員、立花宏美委員
袴田丈晴委員

・教育委員会事務局：7名

萬教育部長、伊藤教育部次長、三浦スポーツ課長、遠藤スポーツ振興担当主幹
板東スポーツ係長、渡辺スポーツ振興コーディネーター、結城主事

3. 開催結果

(1) 委嘱状交付

所属団体の人事異動等に伴い、開会前に教育部長から新規の委員に委嘱状を交付。

(2) 開 会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

(3) あいさつ

金内会長・教育部長からあいさつ

(4) 委員・職員紹介

(5) 報告事項

報告事項（1）平成29年度スポーツ関係事業実施報告について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○スポーツ係長：

はじめに、教育委員会が行った事業について報告する。

まず、学校体育施設開放事業であるが、社会人体育団体学校開放事業は、学校運営に

支障のない範囲で、体育館及びグラウンドを市民のスポーツ団体の活動場所として提供する事業で、平成29年度は、25小中学校を143団体に開放し、利用者数は延べ14万7,860人であった。次の体育施設開放事業（学校体育館土曜開放）は、10の小学校の体育館及びグラウンドについて、土曜日の午前を地域の児童生徒のスポーツ活動場所として提供するもので、利用者数は延べ2,859人となっている。また、体育施設開放事業（学校プール開放）では、夏休み期間中、15校の小学校プールを開放し、利用者数は、延べ8,375人であった。

次に、スポーツ普及奨励事業の青少年スポーツ賞顕彰であるが、スポーツ賞は高校生以下を対象にして、全国大会で3位以上を基準としており、8個人、1団体を表彰している。スポーツ奨励賞は高校生以下で全道大会1位を基準としており、17個人、16団体を表彰している。教育委員会賞は、小中学生で全道大会2位又は3位を基準としており、15個人、12団体を表彰した。次の、スポーツ大会出場奨励金交付は、予選を経て全道大会規模以上の大会に出場する市民に対し、負担の軽減を図る目的で奨励金を支給するもので、国際大会では、個人9人と1団体に、全国大会では、個人61人と11団体に、全道大会では、個人76人と12団体に、それぞれ奨励金を支給したものである。

次に、スポーツ振興に関する事業であるが、屋外体育施設管理運営事業は、はやぶさ運動広場内の少年野球場、テニスコートなどと、第二中学校に特設するスケートリンクの管理運営を江別市スポーツ振興財団に委託したものである。スポーツ大会等振興補助事業は、江別市スポーツ振興財団が実施するスポーツ大会や健康体づくり指導相談などの事業に係る補助金で、4,478万3千円を交付している。

次に、体育団体補助金であるが、江別市体育協会と江別市スポーツ少年団が実施する事業に対する補助金である。

次に、地域スポーツ活動活性化促進事業は、学校レクリエーションや自治会などにおいて、スポーツ推進委員の指導の下、軽スポーツを行い、この普及を目的とする事業で、3件、延べ213名を対象に実施した。

2ページの3市交流スポーツ大会開催事業については、札幌市厚別区と北広島市との持ち回りによる交流事業であるが、平成29年度は江別でパークゴルフ大会を開催した。

次に、スポーツ合宿誘致推進事業については、合宿誘致にかかる情報収集・PR活動を行うとともに、合宿に訪れる道外の団体に対し、空港から宿泊地・練習会場への送迎サービスの提供、道立野幌総合運動公園などの会場使用料の補助、江別市特産品の提供といった支援を行ったものである。平成29年度の実績としましては、野球・バスケットボール・フィールドホッケー・水球・シンクロナイズドスイミングなど様々な競技団体が訪れ、延べ14団体、470名に対し各種支援を行った。また、それぞれ地元チームとの交流試合などを実施していただき、当市にとっても有意義なものとなった。

次に、パラ・スポ体験会開催支援事業は、市民の障がい者スポーツへの理解を深める

とともに、障がい者を含む全ての人が、スポーツに親しむ意識醸成を図るため、障がい者スポーツを実体験できるイベントの実行委員会に対して、補助金を交付したものである。

次に、スポーツ施設改修整備事業の体育施設整備更新事業であるが、4つの体育館、3つの屋外体育施設に係る修繕工事費と備品購入費である。平成29年度は、青年センタープールの配管の一部更新大麻体育館の排煙窓修繕、フットサルゴールの購入などを行った。また、体育施設耐震化については、大麻体育館トレーニング室棟の耐震改修工事を行い、本工事をもって大麻体育館の耐震化が完了した。市民体育館改修整備事業は、高圧変電設備の更新と、法令に基づく重油地下タンクの内部コーティング工事を行ったものである。大麻体育館改修整備事業は、先に説明した耐震改修工事と併せて実施した、軽スポーツ室の屋上防水工事と床張替え工事に要した経費である。

最後に、体育施設の指定管理事業であるが、市民体育館など屋内4体育施設は一般財団法人江別市スポーツ振興財団が、あけぼのパークゴルフ場及び森林キャンプ場についてはエコ・グリーン事業協同組合が、それぞれ指定管理者として管理運営を行ったもので、指定管理料は合わせて1億9,333万8千円であった。

3ページから7ページにかけては、一般財団法人江別市スポーツ振興財団が行った事業となっている。説明した指定管理に係る事業や、スポーツ大会等振興補助金に係る事業、自主事業などを行っているもので、詳細のご説明は割愛させていただきますが、事業内容は記載のとおりである。各種スポーツ教室やスポーツ大会を開催したほか、健康体力づくり指導相談事業、スポーツ指導者養成事業、体育施設管理運営事業を実施している。

(質疑等 → なし)

報告事項(2)平成29年度スポーツ施設利用状況について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○スポーツ係長：

資料の8ページは平成25年度から平成29年度までの5年間の当市の各体育施設の利用実績である。平成29年度の利用者数について、屋内施設では、4体育館合計で、過去最高となった平成28年度とほぼ同数の、50万3,541人となった。

屋外施設については、都市公園内の少年野球場やテニスコートなどの利用者数であるが、合わせて9万7,310人と前年までに比べ、減少している。

森林キャンプ場は、1万3,005人で前年度から約12%の増加となっている。9ページに記載した、あけぼのパークゴルフ場は3万2,477人となり、近年減少傾向でしたが増加に転じる結果となった。

このほか、特設スケートリンクと学校体育施設開放事業の実績は記載のとおりである。最後に、当市のスポーツ施設利用者の総合計は、81万5,693人となり、前年度から約1.2%の減となった。

(質疑等 → なし)

報告事項(3) 平成29年度江別市スポーツ推進計画推進状況について

- ・スポーツ課長から、資料に基づき報告した。

○スポーツ課長：

平成28年度江別市スポーツ推進計画推進状況報告書について、説明する。

第5期江別市スポーツ推進計画は、第6次江別市総合計画の個別計画と位置づけ、計画期間を平成26年度から平成30年度までの5年間とし、誰もが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツの実現を目指すために策定した。

本計画の推進には、各施策の実施状況や達成状況、効果・課題について、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)の考え方に基づいて、点検・評価を行い計画に反映させていくこととしているので、平成29年度における「成果指標」の結果と今後の推進の方向性について、報告する。

資料10ページの「基本目標Ⅰ：生涯スポーツの推進」であるが、平成29年度は、生涯各期におけるスポーツ活動の機会提供と充実として、各種スポーツ教室を開催し、各年齢層別のメニューを提供した。各領域におけるスポーツ活動の充実と関係機関・団体との連携としては、学校開放事業など、スポーツ活動機会の提供を行った。スポーツ教室の受講者数は、前年を若干下回ったが、安定した受講者数を確保している。学校開放事業は、利用人数は減少しているが、登録団体数・登録人数ともに増加し、各団体の活動は活発な状態である。週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合は現状値に比べて上昇しているが、前年度比で見るとほぼ横ばいの結果となった。年代別にみると高年齢層の方の割合が高い傾向がある。今後の方向性について、スポーツ活動に親しむ市民割合の上昇を目指し、今後も、より多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、関係機関と連携して魅力ある事業の提供に努めていく。また、スポーツ合宿誘致活動を積極的に実施し、市内施設を利用して合宿を行う道外の団体に対して施設使用料補助等の支援を行うとともに、交流試合等の市民交流事業を通じて、市内スポーツの振興に取り組んでいく。

資料11ページの「基本目標Ⅱ：地域スポーツ活動の推進」であるが、平成29年度は、地域スポーツ活動の活性化のため体育協会やスポーツ少年団の活動に対する支援のほか、軽スポーツの指導・普及を行う軽スポーツの出前事業を実施し、気軽にスポーツに親しめる機会を提供した。各スポーツ団体やスポーツ少年団は少子高齢化の影響があ

る中、会員数は一定の人数を保ち、それぞれの団体は活発に活動し、全道大会や全国大会でも多くの選手が活躍している。スポーツ機会が充足していると思う市民割合は66.3%と上昇し、現状値を下回っているが、近年は上昇傾向にある。年代別で見ると若年層と中年層の方で充足していると感じている割合が高くなっているが、高年層では他の年代と比べて不足していると感じる割合が高く、先ほど説明した成果指標1の結果を踏まえて考えると、スポーツ活動が活発な世代における機会の充足が課題と言える。今後の方向性であるが、各団体の活性化のため、体育協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等に対し、指導者育成等の支援や情報提供等の取組を継続して行い、「健康都市えべつ」の実現を図っていく。

次に「基本目標Ⅲ：スポーツ環境の整備・充実」であるが、平成29年度は、災害時の避難所としても重要な社会体育施設の計画的な改修として、大麻体育館トレーニング室棟の耐震改修工事を行ったほか、市民体育館高圧受変電設備更新など、施設の修繕及び備品の更新等の環境整備に努めた。市内の屋内体育施設は、建築から30年以上経過したものが多く老朽化対策が課題となっているため順次改修整備を進め、その結果、スポーツ施設整備の満足度は61.0%となり、現状値を下回っているが、近年は上昇傾向にある。今後の方向性であるが、平成30年度も市内体育施設の改修整備を行い、安全で快適に利用できるスポーツ環境づくりを進めるとともに、指定管理者と連携して利用しやすい施設運営と適切な管理を行う。

(質疑等)

○花井委員：

市民の割合の算出はどういった方法によるものか。

○事務局（スポーツ課長）：

1年に1回市民アンケートを実施し、それに基づいて算出している。

○花井委員：

どのくらいの人数を対象としているか。

○事務局（スポーツ係長）：

2種類のアンケートがあり、それぞれ2,500人ずつを対象に実施している。回収率については1,000人超の回答があり、それに基づいて集計している。

報告事項（4）平成30年度スポーツ関係事業計画について

・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○スポーツ係長：

まず、12ページに記載したのは今年度において、教育委員会が行う事業である。

ここでは前年度から内容変更のあった事業を主に説明する。

表の中段やや下にあります全国大会等開催補助事業については、記載のとおり、今年度はジャパクラシックマスターズ パワーリフティング選手権大会、全日本社会人男子新体操選手権大会に対して、開催市としてそれぞれ補助金を交付する事業である。

次の、3市交流スポーツ大会開催事業は、札幌市厚別区・北広島市・江別市の交流事業であるが、今年度は江別市での開催が無いため、予算額はゼロとなっている。

続いて3行下のスポーツ施設改修整備事業のうち、市民体育館改修整備事業は、弓道場の拡張工事を行うものである。青年センター改修整備事業は、老朽化し亀裂や破損が多数発生しているプール水槽の改修と、ろ過機のろ布を取替える工事を行うものである。

続いて、青年センター改修整備事業（災害復旧）は、昨年12月に発生したプール棟屋根破損について、本復旧工事を行うものがある。こちらは先日工事が完了している。

13ページから16ページにかけては、江別市スポーツ振興財団が行う事業である。指定管理事業、受託事業、補助事業については、それぞれ記載のとおり、前年度同様の事業を予定している。平成30年度は、屋内体育施設に係る、第4期目となる指定管理の初年度となる。受講者ニーズを踏まえたスポーツ教室の改善が行われるとともに、16ページに記載があるが、自主事業では、好評であったこれまでの事業を継続しつつ、「夏休み短期体操教室」「健康セミナー開催」など、新たな取組を始めるなど、内容の充実を図っていくとお聞きしている。なお、これらの詳細については、当該財団の広報紙をお配りしたので、ご参照願いたい。

（質疑等）

○袴田委員：

スポーツ合宿誘致推進事業について、平成29年度の決算額は3,311千円となっており、平成30年度の予算額は3,010千円となっているが、平成30年度の合宿誘致予定の件数はどれくらいか。また、野幌総合運動公園も利用されていると思うが、江別市内の他の施設の利用実績について教えていただきたい。

○事務局（渡辺スポーツ振興コーディネーター）：

平成30年度の合宿誘致は、11団体を予定している。決まった予算額の範囲内で合宿誘致を行っているが、超えそうであれば流用措置も検討している。施設の利用について、ほとんどが野幌総合運動公園の利用となっているが、場合によっては大学の施設を利用することもたまにある。宿泊施設については、主に札幌の施設を利用している。

(6) 審議事項

審議事項(1) 第6期江別市スポーツ推進計画(素案)について

- ・スポーツ振興担当主幹から、資料に基づき説明した。

○スポーツ振興担当主幹：

第6期江別市スポーツ推進計画(素案)について、説明する。

計画素案の説明に入る前に、第6期スポーツ推進計画において重要なテーマと考えていることを簡単に説明する。ポイントは、大きく2点ある。

素案の表紙にあるサブタイトルにも関係するが、1点目は、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」とあるように、あらゆる角度からスポーツ参画人口を増加させていく、ということ、もう2点目は、「健康都市えべつ」とあるように、スポーツと健康づくりの取り組みをどのように関連付けていくのか、ということである。

1点目のスポーツ参画人口の増加については、従来の、スポーツを「する」という視点に加え、新たに「みる」「ささえる」という視点を盛り込む。スポーツを応援する人や、選手を支える立場にある人も含めてスポーツ参画人口として考えいくとともに、「みる」「ささえる」立場にある人も取り込んでいくことで、来年開催されるラグビーワールドカップや、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成、ボランティア参加などにもつなげていこうとするものである。

2点目のスポーツと健康づくりとの関連付けについては、主に健康福祉部との連携ということになるが、健康都市宣言を踏まえた市民の健康づくり、健康寿命の延伸に向けて、市の健康に関する施策との連携を意識した計画のつくりとしている。

引き続き計画の素案の内容について説明する。まず、3ページでは、昨年制定した「健康都市宣言」を新たに掲載した。

続いて、5ページ、6ページでは、計画策定の背景及び趣旨を述べている。この中では、先ほど申し上げた「スポーツ参画人口の拡大」について、5ページ下から4行目以降で触れている。

また、6ページの下から6行目以降では、健康都市宣言を背景とした、市民の健康づくりとスポーツの関連付けについても記載している。

7ページでは、計画の性格と期間、として、国や道の計画、自治基本条例や江別市総合計画等との関連について記載したうえで、第6期スポーツ推進計画の計画期間を掲載している。計画期間は第6次総合計画の後期の期間に合わせて、2019年度(平成31年度)から、2023年度までの5年間とする。

続いて、第2章、計画の基本的な考え方として9ページから11ページにそれぞれ記載している。

10ページの成果指標については、基本的に第5期の指標を引き続き使用する。なお、「週1回以上のスポーツ活動実施率」については、第5期では上向き矢印での標記であったが、第6期では具体的数値を掲げた。これは、国が同様の項目について目標値を「65%」としていることを参考に、当市の現状値を考慮して設定したものである。

また、()書きで障がい者についても記載しているが、事前に障がい福祉係に確認したところ、このような数値を拾っているアンケート調査等はない、とのことであった。これについて、体育館の利用者内訳を整理する中で、障がい者手帳などの提示があった利用者数を集計していただいているということだったので、そのあたりの数値を利用して、指標管理ができないか、検討しているところである。

10ページ下段から11ページにかけては、施策体系を掲載している。これについては、前回2月の審議会で説明している。その後、具体的な施策を検討していく中で、若干表現など修正はあるが、基本的な部分是不変わるので、詳しい説明は割愛する。

続いて第3章、基本目標と基本方向について、13ページから始まる、I生涯スポーツの推進では、先ほど説明した、「どのようにしてスポーツ参画人口を増加させていくのか」という視点に立ち、年代ごと、領域ごとの取り組みの方向性を示している。

中でも体力低下の懸念がある青少年や、仕事・育児等で時間のとりにくい成人に対する働きかけが重要であると考える。

14ページ(2)青少年のスポーツでは、運動の習慣化、定着化を図ることと合わせて、サポート体制の充実にも触れていくこととしている。

次の15ページの(3)成人のスポーツでは、スポーツや運動に参加しやすい環境をつくること、多様な参加の機会をつくることを施策推進の方向性としている。

17ページからは、各領域の取り組みとしての施策を記載していて、17ページ(1)生涯スポーツ、18ページ(2)学校における体育・スポーツは、先ほど説明した、青少年と成人が主なターゲットとなる。

20ページでは、成果指標とも関連する「障がい者のスポーツ」への取り組みについて、その次の21ページでは新たな施策項目として「女性のスポーツ」について記載している。特に女性のスポーツに関しては、成人のスポーツとも重なる部分があるが、育児にかかる年代のスポーツ実施率が低いことに着目し、その部分に対してどのような働きかけを行っていくかが重要であると考える。

続いて22ページから始まる、II地域スポーツ活動の推進について、この章においては、市のスポーツ施策に関わる体育協会やスポーツ振興財団の取り組み、また、健康福祉部と連携した健康づくりを主眼に置いた施策について、主に記載をしている。特に注目していただきたい部分としては、まず、23ページ、「(2)地域スポーツを「ささえる」人材の育成・支援」として、各種のスポーツ活動を下支えしてくれている団体等に着眼した施策を記載している。特に「育成母集団」として、これまで注目されていなかった、スポーツ少年団に参加している保護者などについても意識をした内容としている。

続いて27ページでは、「身近なところで競技スポーツを「みる」機会の充実」とし、ラグビーワールドカップや、東京オリンピック、パラリンピックを契機とした機会創出を念頭に、スポーツ参画人口の増加に向けた施策として記載をしている。

次に、健康づくりに関する取り組みとして、29ページから31ページにかけて記載しており、30ページでは、当市の健康福祉部が推進する「えべつ市民健康づくりプラン21」と連携して取り組みを進めていくことについて、記載している。このプランの中で、運動については、「今より10分多く動こう」をキーワードとしており、成果指標としているスポーツ実施率や、国の推奨する「30分、週2回以上の運動を1年継続する」といったことを課題・視点と捉えたうえで、気軽にスポーツをする機会の提供、充実を図っていこうとするものである。

31ページでは、「スポーツ・健康づくりに関する保健・福祉機関等との連携による相談体制の充実」とし、主には保健センターとの連携を意図した施策となっている。

最後に、Ⅲスポーツ環境の整備・充実であるが、32ページから33ページにかけて、スポーツ施設の整備、充実、活用、適切な管理について、それぞれ記載をしている。特に施設整備については、スポーツ課で懸案事項となっている部分であり、議会等でも、たびたび議論になってきたところである。

そのことを踏まえ「(2) 公共スポーツ施設の整備に関する具体的方針の策定」については、「いつまでに何をどうするのか」、もっと具体的には、青年センターのプールを今後どうしていくのか、ということを中心に、来年からの5年間の間で、何らかの方針を示していきたいと考えている。

(質疑等)

○議長（金内会長）：

ただいま説明があったが、山下委員から順番に意見を伺いたい。様々な場面でスポーツが重要だと感じるが、何かあるか。

○山下委員：

幼児のスポーツについては、各園・各施設において、常に遊ぶことがスポーツに親しむことに繋がっていると思う。しかし、幼児を抱えている保護者の方々は、運動の機会が必然的に少なくなる。幼児を抱える保護者の方々にどのようにして運動の機会を提供していくのか、こういった課題を解決するとなると非常に難しいのが現状だと思う。

○松田委員：

シニアのママさんバレーボールのチームが多くなってきており、その方たちは週2回活動を行い、全道大会を目指して、意欲的に取り組んでいる。そういった意味では、女性のスポーツも含めて、高齢者のスポーツについて非常に充実してきているのではないかと。

○立花委員：

北海道で健康増進計画を策定しており、昨年度中間評価をしたところ、運動習慣のある方の割合が減少しているという結果が出た。江別市だと、保健センターと一緒に健康づくり対策を進めているので、健康のことについて考えながらやっていきたい。

○袴田委員：

野幌総合運動公園には様々な施設があるが、プール利用の観点からみると、一般開放の平日の利用人数が少ない。その中でも65歳以上の高齢者の利用が多い。土日になると、小中学生のスポーツクラブの大会による利用が多い。

○小林委員：

小学校の親子レクで軽スポーツ出前事業を実施することが多いが、やっている時は親も子供も一生懸命、軽スポーツに取り組む姿勢が見られるが、継続してスポーツをする環境がないのが現状であり、課題だと感じる。

また、北海道スポーツ推進委員協議会が行われ、障がい者スポーツ関連のものに力を入れて取り組んでいこうという方向に決まった。全国で障がい者スポーツのリーダー養成講習会が行われているが、北海道からは今まで1人ぐらいしか行っていなかったが、3人程度参加することで、障がい者スポーツのリーダーを養成していく形をとっていこうという全道の仕組みができてきている。

○福田委員：

大麻東小近辺は公園が大きくて、外で遊んでいる子どもの割合が非常に多いと感じる。そのような環境に恵まれていることは素晴らしいことだと思う。スポーツ関係については、野球・バドミントン・バスケットボール・卓球等の少年団に入っている子どもたちがいるが、少年団になると競技という面が強い部分がある。少年団が発展すればするほど、スポーツを楽しんで継続するのが難しくなって、せっかく入っても辞めてしまったりする人がいる。小学生ぐらいまでは様々な遊びなり、スポーツなりを経験してもらいたい。

○北本委員：

スポーツをする施設や環境が足りないから、運動する習慣が身につかないのではないかと。すぐにどうにかできる問題ではないので、今は現状の施設で何とかするしかないと思う。例えば、市内の小中学校の体育館の利用の管理をすることで、スポーツに触れ合う機会を提供するなどの方法があると思う。

現在、教員の中の働き方改革で、北海道から出ているアクションプランでは「部活動は

週1回休みなさい・月1回土日のどこかで休みなさい」というように言われている。これは、今後競技スポーツと生涯スポーツを分けながら学校でやっていくという意味合いであり、部活動による競技スポーツだけではなく、生涯スポーツとして身近な生活の場にスポーツを取り入れていくことも重要である。

最近の子どもたちは少年団が強いと入りづらく、入ることをためらうケースが散見される。小さい時から体を動かすことが一番で、ただ遊ばせるだけではなくて、感覚を養ってあげるような遊びを取り入れることが重要になってくる。そのような要素を小学校体育や中学校体育で取り入れることで、生涯スポーツに繋がっていくのではないか。

○原委員：

小学校、中学校とスポーツをやってきた生徒が多いはずなのに、高校の部活動の加入率が伸びていないのが現状である。小さい時から続けてきたスポーツの部活動に加入する生徒もいれば、新たなスポーツにチャレンジするために部活動に加入する生徒も一定数いるが、それと同じぐらい、家庭の経済状況などにより、アルバイトを始める生徒が増えたことが原因である。また、本当は部活動をやりたいが、学校の規定にそぐわない活動状況であれば廃部になることもあり、学校に部活動が存在しないという状況も増えつつある。さらに、学校の人事異動等により、競技の指導者がいない場合もあり、指導者の育成も今後の課題であると思う。

○花井委員：

スポーツ推進計画の中で、週1回以上のスポーツ活動実施率を現状の40%から60%になるように目標値を設定しているが、どの層をターゲットに上げていくのか。

○事務局（スポーツ振興担当主幹）：

ターゲットにする部分については、子育て世代のスポーツ活動実施率の低下がアンケートの結果として出てきているので、取り組んでいく重要項目であると考えます。例えば、スポーツ振興財団のほうで、親子で一緒に参加できるスポーツ教室やイベントの企画、実施をいただいているので、そういった機会を活用していきたい。

また、今回の計画のテーマであり、新しい取り組みの一つとして、「みる」「ささえる」部分も含めて、スポーツ参画人口にしていこうというところがあるので、これについては全ての世代が対象になってくるが、先ほど説明したボランティアであったり、「みる」ことからスポーツに興味を持っていただきたい。健康づくりの観点からみると、「毎日10分歩くようにする」「車ではなくて自転車で通勤する」といった部分もある意味スポーツ、運動の一環だということで健康づくりの切り口からも取り組んでいきたい。

○古川委員：

小学生、中学生でスポーツする子どもは増えているように感じる。子どもがスポーツを始める一番の要因は、テレビで見たり、親がやっているのを見ることである。子どもにスポーツを教える際は、まず見て興味を持ってもらうことが大事である。見ることで、子供たち自身が考え、作戦を練り、実際に体を動かすことにつながる。親がスポーツをさせようとするのではなく、子どもがスポーツをやりたいと思うような環境作りが非常に重要である。優れた指導者と地域が連携しながら、スポーツを推進することで子どもたちは活発に動く環境ができて育っていく。その上で競技スポーツとして、上の世界で頑張ろうと思う人が増えていけばいいと思う。

○議長（金内会長）：

様々な意見が出たが、ほかにないか。
なければ終わりたいと思う。

(7) その他

○スポーツ係長：

次回の審議会の開催は、11月頃を予定している。時期が近くなったら、ご案内させていただきます。

○議長（金内会長）：

今回は11月頃を予定ということで、それまでの間に委員から質問等があれば事務局に連絡願いたい。以上をもって第1回江別市スポーツ推進審議会を閉会する。

(8) 閉 会

午後4時45分 終了